

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707
E-mail kohitsuji@imix.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人
印刷所：聖隷サービス(有)
定 価：一部 30円

2010年5月20日
第 325 号

小羊学園が

大切にしてきたもの

三方原スクエア施設長 山崎 陽司

三方原スクエアの玄関の横に一本の桜の木があります。新築工事の費用が予算をかなり超過してしまつた中で、外構工事にあまり費用をかけられず、静岡県グリーンバンクの助成を受けて数本の立ち木を植えた中の一本です。

やがて大きく成長し、春の暖かな日にお花見ができればと思ひました。しかしながらきちんと手入れをしていないためでしょう、今年は数輪の花を咲かせただけのさみしいお花見になってしまいました。

毎年この時期になると、児童部では4月から新しく入所される子どももの手続き等を行っています。今年は高等部を卒業した人の進路がなかなか決まらず、ギリギリになって2人の方の退所が決定しました。するとすぐに新たに入所を希望する子どもたちの話が、児童相談所や相談支援事業所からやってきます。平成21年度は20名定員のところを21名受け入れてきましたので、少しほっとしたところだったのですが、そんな事を言っではいられない現実があります。私の立場から申しますと、子どもが育つには厳しい家庭環境であるなど、できるだけ困難な状況の方から受け入れたいと思うのですが、支援

する現場の立場になればそれだけ大変なことになるので、相当の覚悟が必要になります。判断に悩む私に、児童部の主任が「私たちはその子ども達の障がいが多様な重度で困難だからといって、そのことを理由に入所をお断りするとはしたくありません」と言ってくれました。なんとも頼もしい言葉ではありませんか。小羊学園の精神を改めて思い起こし、とてもうれしくなりました。

近年、障害者自立支援法が廃止となり、新たに障がい者総合福祉法(仮称)が制定されようとするときに、知的障がい関係施設の在り方や障がいのある人たちの生活支援についての論議が全国的に展開されています。このときに小羊学園も今後どのような方向に向かつて歩んでいくかということ真剣に考えていかなければなりません。私は、そのために改めて小羊学園の歩みを振り返ってみたいと思うのです。それは、小羊学園が何をしてきたのかというのではなく、社会のどんなニーズにこたえてきたのかという視点で見直すことが重要で、その時にこそ小羊学園が大切にしてきたものが明らかにになり、その上で今後の方向性が示されるのではないかと思います。

入所施設こそ重度の障がいのある子どもたちを対象とすべきであるという信念を持ち、社会的差別や偏見の中にあつて、家庭介護が限界の状態にある

ご家庭から子どもの命を守るために始められた小羊学園の歩みは、その後大きく展開し、今日に至っております。その中であつて小羊学園が大切にしてきたことは、その時その時の社会情勢にあつて、常に対応の困難な人たちの支援に取り組んできたことであると言えらるでしょう。彼らの暮らしや生活の在り方を第一に考え、先駆者的な取り組みを行ってきたことであると思ひます。

日頃から、支援の困難な人たちを大勢かかえ、精一杯の努力をしている中で、新たに困難な事例を受け入れるということとは、決して容易なことではありません。しかしながら、目の前に助けを求めている人がいれば、手を差し伸べずにはいられないのではないでしょう。どんな状態の中であつても、目の前の困難を受け入れようとする気持ちがあり、全体で一つの困難を共有していこうとする姿勢が常にあつたのです。そして、その困難が解決していったときに、共に喜びあうことができる仲間たちがいつもいたのです。このことこそが小羊学園が大切にしてきたことであり、これからの時代に継承されるべき事柄なのであります。

数輪の花びらが散ってしまい新緑の葉が茂り始めた桜の木を見上げながら、これからも精一杯この働きを頑張つて、来年こそたくさんのお花を咲かせたいと期待を膨らませています。

小羊学園44周年創立感謝祭

昭和41年に小羊学園が創立されて、今年で44年を迎えました。毎年、この時期に記念礼拝と感謝祭を行い、利用者・保護者・お客様・職員でお祝いをします。

三方原スクエアでは2回目となった、創立感謝祭の様子を紹介します。

気温20℃。晴天に恵まれ、爽やかな春の日差しが感じられる日になった、4月29日、昭和の日。小羊学園が開所した5月前後に、毎年、創立感謝祭を行っています。

小羊学園の発祥の地は細江町中川ですが、一昨年移転改築した後も、南西に300m移転した三方原スクエアがその想いと伝統を継承しています。

記念礼拝

スクエア食堂を会場として、記念礼拝が行われました。キリスト教精神に基づく運営をしている小羊学園では、大きな行事や式典の際には、必ずキリスト教礼拝を執り行います。礼拝では、法人の愛賛歌である「ちいさいひつじが」(こども讚美歌72番)「ひかりひかり」(こども讚美歌52番)を讚美し、森田恭一郎遠州栄光教会牧師によるメッセージを聞きました。

礼拝中は、厳かな雰囲気の中にも利用者の声が響き渡ります。どんな人でも



礼拝後に挨拶をする稲松理事長

も神さまの下に集められ、みんなと一緒に讚美する様子は「やっぱり小羊学園らしいなあ」と感じます。

これまでの44年の歩みの中には様々な苦労や苦難があったと思います。その時々には神さまがともにいてくださり、お救い下さったことを覚え、感謝したいと改めて感じる事が出来た礼拝でした。

ランチタイム

記念礼拝の終了後はスクエア内各所にてランチタイムです。模擬店で用意されたやきそば・フランクフルト・ポテトフライ・ゼリーなどを各自好きな場所でしたきました。普段は親元を離れて生活している利用者ですが、今日は親子そろっての食事です、お話しうに頬張る顔がとてもキラキラしていました。



ヒロシさんとお母さん

喫茶コーナー

玄関を入れて真正面にある地域交流スペースを会場に行われた喫茶コーナーでは、デイケアホームのクッキーorパウンドケーキ付きのコーヒー・紅茶セットとオリーブの樹のパンが販売されていました。



どちらにしようか悩むタケシさん

バザー販売

礼拝終了後から、活動スペースを会場にバザー販売が行われ、保護者や地域の皆さまから献品して頂いた商品が会場とこ狭しと並べられました。

バザーならではの値段設定でどの商品も一般価格の半額以下。中には「えっ!こんな値段でいいの?」と思わず確認してしまっほど安い品もありましたよ。

デイケアホームのブースには、食後の一時を楽しむ利用者や職員が足を運び、おいしいドリンクとクッキーやパウンドケーキをいただいでいました。また、オリーブの樹のパンは、終了を待たずして用意していたパンが完売となる人気振りでした。

祝会の部

讃美の舞い

浜松在住のブラジル人で長老派改革教会に在籍の若者が、讃美歌をイメージした舞を行ってくださいました。緑と白のドレスに身を包んだ田村エマヌエラさんと茂木ミシエレさん。「踊りの才能を与えてくれた神への感謝を踊って表現し、みんなにも神の祝福が届くように」と華やかな舞いに、見学していた観衆もうっとりで見入っていました。国際色豊かな雰囲気は、小羊学園にとっても新しい風となりました。



シンクロされた踊りを披露

若き日々の思い出

小羊学園の歩みを振り返るスライドショーが食堂で行われ、開設当初から昭和50年代〜60年代を中心にプロジェ

クターに映し出されました。子ども時代の写真が映し出されると「かわいい〜」「これは〇〇さんだよね?」と会場から色んな声が飛び交っていましたよ。今は管理職ですっかり威厳のある先輩職員が、利用者と一緒に汗をかいて働いていた姿を見て、小羊の長い歴史の1ページを垣間見ることが出来ました。

鍵盤に酔いしれる

13時からスタートしたピアノリサイタル。今回、鍵盤を弾いて下さったのは、横浜市在住のプロピアニスト小坂直輝さん。ジャズピアノニストである小坂さんは、近年は讃美歌をアレンジした新たなジャンルで活動し、CD製作やリサイタルを展開。今回のリサイタルでも、讃美歌をアレンジした曲目を次々と披露してくださいました。優しさや躍動感のある小坂さんの演奏に会場一同酔いしました。

実はこの小坂さん、山崎施設長の甥にあたるそうです。



鍵盤を弾く小坂さん

私たちが企画しました!!

- どんな創立記念日を企画したいと思いましたか？
44周年ということで来客者や(新)職員にも歴史を感じてもらえるように。もちろん利用者には一日楽しんでもらえるようにと、企画しました!
- 創立記念日を企画する段階で苦労したことは？
午後のメインであるアトラクションのメニュー(出演依頼をいくつか断られて)
- 当日を迎え、苦労した甲斐があったなあと感じたことは？
急きょ作ったスライドショーの映像に喜んでもらった時
- 小羊学園らしさを感じたところは？
アトラクションをやっていても自由気ままに過ごす利用者を見て、小羊学園らしいなあ〜と...



実行委員の職員。真ん中が委員長の西村さん

子どもも大人もノリノリ

次なるアトラクションは親子教室「ポッケ」によるステージショー。浜松大学子ども健康学科の教員・学生によって構成されたフレッシュな面々。「おかあさんといっしょ」などで人気のうたと踊り、そして会場を巻き込むパフォーマンスを繰り広げ、子どもも大人もノリノリ気分。30分のステージはあっという間に終わってしまいました。※「ポッケ」の紹介は次ページで

フォーク世代の心に響く

創立感謝祭では2回目となり、すっかりお馴染みとなったフォークセッション

ン。KAZさんこと吉田和弘さんとIWAOさんこと出水巖生さん。テツヤさんのマイクテスト後、「遠い世界に」「踊り子」「また君に恋してる」「22才の別れ」「あの素晴らしい愛をもう一度」の全5曲を披露してくれました。



フォークなお2人。KAZ&IWAO

浜松大学 親子教室「ポッケ」

創立記念日のアトラクションとして、楽しいステージショーを演じてくれました。

「ポッケ」は浜松大学こども健康学科で行っている親子教室で就学前のこどもとその保護者を対象に教室やイベントを行っています。こどもにとっても親にとっても楽しい遊びがポッケいっぱいに入りますようにと願いを込めて、大学教員と学生が様々な企画をされています。

当日は、海野先生・富田先生はじめ7名の学生がお越しくださり、またポッケに加入している親子もご来園下さり、利用者と一緒にポッケのショーを楽しみました。



笑顔が爽やかなポッケのメンバー

平成22年度 小羊学園を支える会 役員

- 代表 小林 眞 (日本基督教団遠州教会 牧師・法人評議員)
- 役員 古橋 克己 (日本基督教団遠州教会 信徒・法人理事)
- 々 大月美保子 (日本基督教団遠州教会 信徒・ボランティア代表)
- 々 宮谷百合子 (日本基督教団浜松教会 信徒・ボランティア代表)
- 々 田中 清司 (三方原スクエア家族の会 会長・法人評議員推薦)
- 々 稲松 義人 (社会福祉法人小羊学園 理事長・法人理事会推薦)
- 々 池谷 慎人 (社会福祉法人小羊学園 事務局長)

※役員は21年度役員が留任をされました。



総会で挨拶を述べる小林代表

小羊写真集
今月号は紙面の都合でお休みさせていただきます。次号をお楽しみに！

小羊学園支える会総会が行われる

創立感謝祭終了後に、22年度小羊学園を支える会総会が行われました。

小林眞支える会代表をはじめ、役員・会員11名が出席をされ、会計報告・事業報告と、今年度の事業計画および規約の改正、役員の改選がされました。

議事終了後には、稲松理事長から小羊学園の現状報告が行われました。その後の自由討論では、支える会の活動として創立者山浦先生を偲ぶイベント開催を検討していききたいとの意見もありました。

なお、今年度の役員は左記の通りです。

小羊学園を支える会

2010年度寄付金報告

4月受付分	480,920円 (39件)
累 計	480,920円 (39件)

小羊学園への寄付金振込み先

- (口座名義)「小羊学園を支える会」
- 郵便振替口座 00890-4-45415
- りそな銀行浜松支店 (普通) 040005
- 静岡銀行細江支店 (普通) 043483

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局 (鈴木)
三方原スクエア内 ☎053-414-1833

編集後記

創立感謝祭が行われる2日前に1通のメールが三方原スクエアに送られてきました。送り主は、小羊写真集のカメラマンで当時、中日新聞細江通信部で記者をされていた平崎孝氏。現在は岐阜県に在住されています。

お手紙の最後に『山浦先生に教えられたこの世を去る際の「作法」を忘れないように心していますが、「つぶえ」の写真で、思いもかけず当時の日々を懐かしく思い出す幸せをいただいています』と書かれていました。編集者にとって、大変ありがたい言葉であり、観てくださる方それぞれに小羊への想いがあることを感じました。

そろそろ梅雨の季節に入ろうとしています。蒸し暑くなりますので、体調管理に気をつけお身体を大切に。